



養父市

養父市農業の魅力発信

農業委員会だより



No.6

令和4年7月
発行



養父市農業の未来に向かって



赤米の田植え (八鹿町小佐)

赤米は古代米と呼ばれる赤色のお米です。奈良大仏造立(西暦752年)の3年後に小佐地区から赤米を納めた記録が残っています。この由緒を活かし平成2年から始まった赤米づくりは今も八鹿小学校で受け継がれ奈良へ献上されています。

意見交換会参加者 (P2・3)



谷垣 貴志さん



中川 和真さん



青木 幸さん



太田 宏和さん



田村 和樹さん



北山 愛さん



第6号 もくじ

- 若手農業者との意見交換会／若手農業者インタビュー……2・3
- お知らせ……4

若手農業者との意見交換会を行いました

農業委員会では毎年、農業に関わる方の声を農業施策へ反映させるため意見交換会を実施しています。若手農業者との意見交換の状況と、若手農業者を紹介します。

農業参入にあたって

- どの農地が借りられるのか地域の方に聞いても把握されていないこともあり、インターネットで調べても出てこなくて困った。検索しただけで空き農地がわかれば、新規就農の助けになると思う。
- 不明な点だらけだったので、市・県・JA・農業委員会などの総合的なサポート体制があればスムーズに参入できると思う。
- 地域全体で耕作条件がよく、まとまりのある農地を貸し出せるような支援体制があれば、新規就農者が地域の担い手にもなれると思う。
- 水稲中心だとほとんど儲けがない。農業者が儲かるシステムを構築することが大事だと思う。



(R3.12.15)

耕作放棄地の解消について

- 再生には補助金を活用したが自己負担も大きく、ハードルが高い。
- 小規模でも新規就農者がどんどん増えれば耕作放棄地も徐々に減少していくのではないかな。
- 潜在的に耕作放棄される要因がある。再生に大きな労力を使うより、今ある農地を守り耕作放棄地化させないことも大事ではないかな。
- ほ場整備をする等、農地を集積し作業しやすい環境を作ってあげれば良いと思う。
- 離農をされる人がいる一方で、農地を探している農業者もいる。農地の情報を一元管理できるようなシステムがあれば防止になる。

若手農業者インタビュー

氏名（主な営農場所）

- ①生産品目【販売先】 ②今後の目標
③困っていること ④セールスポイント
⑤その他（自由記述）



谷垣 貴志さん（上箇）

- ①水稲 【JA・旅館（ハチ高原）】
- ②おいしいお米を作り、但馬のお米を有名にしていきたいです。
- ③兼業農家であるため、農業に携われる時間が少ない。
- ④体力だけには自信があります。
- ⑤コロナ禍による飲食業の低迷やイベントの中止等によりお米の消費量が減少し、但馬のお米をアピールする場が少なくなったが、頑張っておいしいお米を作り但馬地域の活性化の力になりたい。
農業を通じ、但馬外から養父市に來られ農業を頑張っている方とも交流することができ、養父市もすてたもんじゃないと感じることができました。



中川 和真さん（大屋町大杉）

- ①切り花・トマト・水菜 【JA・直売所】
- ②年に1個は新しい栽培作物に挑戦すること。
- ③大雪になると作物やビニールハウス等施設への被害が多く、経営を圧迫している。
- ④大変な仕事であっても、前例にとらわれず試行錯誤し楽しんでやることができるところ。
- ⑤野菜は兵庫県認証食品として安心ブランドを取得し、化学肥料・農薬を使用せずに栽培しています。将来は自宅古民家を活用して、人が集える場所づくりをしたいです。



青木 幸さん（八鹿町高柳）

- ①野菜（100品種程）、小麦 【インターネット販売、小売、卸売】
- ②環境を守り、地域の資源を活用し人々の関心や理解を得て、皆が心地よく暮らしていく手助けになる農業をしていきたいです。
- ③営農地の確保（耕作条件・農地の集約化）水の管理、販路の拡大、栽培技術の向上
- ④四季折々の旬野菜、ちょっと珍しく料理が楽しくなるような野菜もいろいろ育てています。
育てた小麦を使って石臼挽き全粒粉パンやお菓子も製造販売しています。
- ⑤無農薬・無化学肥料栽培をしています。作物を育てることは何事にも代え難い喜びと楽しさがあり、多くの人と農や食の楽しさを分かち合いたいです。



太田 宏和さん（三宅～八鹿町八木）

- ①水稻 【全て直接販売（個人販売・飲食店・インターネット等）】
- ②数年以内に10ha程度に拡大したいと思っています。
- ③借りられた農地が変形田や小区画、水路の老朽化によりなかなか水が来ない、畦畔に大きな石があり草刈が大変なものが多いです。
- ④環境に配慮した循環型農業を目指しているため極力化学肥料・農薬を使用しないように肥料は提携畜産農家からの牛糞堆肥を活用して米作りをしています。
- ⑤高齢化により離農され、棚田のほとんどが山になり、ほ場整備田も近い将来耕作放棄地となってしまいます。農地の再生よりも、今ある農地をどう守って行くか早期に検討する必要があると思います。
就農にあたり養父市独自の研修制度（P4参照）を活用しました。自立にむけ農業を学びながら自分の農業を行える制度で大変助かっています。



田村 和樹さん（大屋町蔵垣）

- ①ズッキーニ・ピーマン・ナス・水菜・野菜の苗
【大手スーパー、飲食店、直売所、個人販売など】
- ②大手スーパーのオーガニックブランドとしても取り扱っていただいている、出荷グループ「但馬有機の会」（養父市・豊岡市）の仲間をもっと増やしていきたい。
- ③今年のような大雪だとビニールハウスの除雪が大変でした。
- ④就農した時から、農薬・化学肥料・除草剤は使わずに、環境にやさしく安心して食べられるものを目指して農業してきました。有機JAS認証を取得し、有機栽培と自然栽培をしています。
- ⑤この春から、研修生2名を受け入れています。



北山 愛さん（八鹿町国木）

- ①ピーマン・ミニトマト など
- ②オーガニック給食の実現、オーガニックカフェ
- ③大雨時の排水不良による冠水
- ④無農薬・化学肥料なしで安心・安全な野菜を育てています。
健康な体、子ども達の未来を全力で守りたいと思います。
- ⑤保育士をしていた経験から、野菜の残留農薬や食品に含まれる様々な添加物が子ども達の健康を脅かしていると危惧しています。子ども達が毎日食べる給食に少しでも安全な食べ物を使い、地球環境に優しい栽培をする農家を増やしたいという思いで「養父オーガニック推奨の会」をグループ化しました。



お知らせ



1. 活動予定

● 農地パトロールを予定

農業委員会では、農地パトロールにより農地の状況を確認しています。今年度は7～10月に実施する予定です。確認のために農地内に立ち入ったり区長・農会長さんへ照会等することもあります。ご理解とご協力をお願いします。



2. 制度のご案内

● 新規就農者が活用できる主な補助制度をご紹介します。

〔新規就農者育成総合対策〕

◆ 経営開始資金

就農直後の経営が不安定な時期に所得確保のため資金を交付します。
(補助内容) 150万円/年 (最長3年間)

◆ 経営発展支援

農業経営開始にあたり必要となる、施設・機械等の導入を支援します。
(補助内容) 事業費の3/4 (上限750万円)

(要件)

- ・原則、50歳未満
- ・独立、自営すること
- ・青年等就農計画の認定を受けていること

〔新規就農者希望者研修支援〕

親方農家(養父市内)のもとで研修期間中の生活資金を交付します。

(補助内容) 180万円/年 (最長3年間)

(要件)

- ・原則、50歳未満
- ・研修後、市内で独立、自営すること
- ・独立までに青年等就農計画の認定を受けること

* 補助制度の詳細については、養父市農林振興課 (TEL079-664-0284) へお問い合わせください。



3. 任期満了に伴い委員を募集しています

農業委員並びに農地利用最適化推進委員の任期は3年となっています。

現委員の任期が令和4年10月31日をもって満了となるため、現在、農業委員並びに農地利用最適化推進委員の募集を行っています。(7月26日まで)

応募方法は自ら応募する方法と推薦による方法があります。

応募もしくは推薦を検討されている方は市のHPに詳細を掲載していますのでご覧ください。不明な点は農業委員会事務局へお問い合わせください。

<https://www.city.yamafuji.lg.jp/>



9585.htm/

*** * * ご注意ください * * ***

農地を農地以外(宅地化等)にするには、転用申請し許可を得る必要があります。

登記地目が「田」「畑」になっているものは、耕作されず現況が農地でなくなっても手続きは必要です。また、農用地区域内などでは農地転用が制限されています。

悪質な違反転用となれば、3年以下の懲役または300万円(法人は1億円)以下の罰金となることもありますのでご注意ください。

